



2026年2月21日の国際母語の日に際しての世界エスペラント協会からのメッセージ

国際母語の日は、1952年、当時の東パキスタン、現在のバングラデシュにおける母語であるベンガル語を使う権利を求めた闘争が、起源です。この日は、言語が、民族や共同体のアイデンティティに欠かせない要素であることを私たちに思い出させます。言語は、伝統、知識、歴史を受け継ぎます。また、母語で学び始める子どもは、最もスムーズに、そして尊厳をもって学ぶことができます。

強い共同体を育むためには、多言語主義を推進することが必要です。すべての人は、自らの母語で学び成長する権利があり、さらに地域語や国語、国際語を学ぶ機会も持つべきです。多言語主義を賢く活用することで、すべての人が参加し、発言し、声を聞いてもらえるようになります。こうして、私たちはみんなで共通の未来を決めることができます。

多言語が共存する世界では、多言語教育と多国間主義が欠かせません。それは、平和や正義、持続可能な発展、そして国連が掲げる目標——平和、人権、国際協力、諸国間の友好関係——を実現するための手段となります。言語的正義とは、すべての言語と発言が尊重され、尊厳と平等のもとで共存し、繁栄する場を作り出すことです。

世界の文化的多様性を守るためには、私たちは言語の多様性も守らなければなりません。

世界エスペラント協会は、1908年の創設以来、異なる民族同士の国際的な意思疎通、理解、相互尊重を促進するために活動してきました。エスペラントという平等な国際語を通じて、私たちは人々の相互理解を深め、すべての人が互いの人間性を認め合い、調和と平和の中で共生できるよう努めています。

私たちは、先住民族言語の国際10年（2022～2032年）の中間点に差し掛かろうとしていることにも注目しています。この期間は、先住民族の言語的人権を守り強化することを特に重視しており、彼らが自らの言語を保存し、発展させ、普及させる権利を保障することを目的としています。

私たちは、2026年8月1日から8日までオーストリアのグラーツで開催される世界エスペラント大会に、すべての人を歓迎し参加を呼びかけます。私たちは、言語の平等と相互尊重を基盤に、人類の多様性を共に祝い、持続可能な発展を目指すボランティア活動について意見を交わすために集まります。